

わかくさ1組 道徳学習指導案

場所 わかくさ1組教室

授業者

- 1 主題名 あたたかいところ
- 2 内容項目 B 親切、思いやり
- 3 教材名 「とくべつなたからもの」 <出典：光文書院>
- 4 主題構成表

■ねらい

親切にすることで相手も自分も温かい気持ちになることに気づき、身近な人に温かい心で親切にしようとする態度を育てる。

■内容項目

B 親切、思いやり

- 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。(第3・第4学年)
- だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。(第5・第6学年)

■内容項目から見た児童の実態(意識)

- ・本学級には3～6年生の児童5名が在籍しているが、発達段階は様々である。友達が困っているときに声を掛けることができる児童や、困っていることが分かっても助けるための言動に移すことができない児童がいる。また、自分本位になり、相手の気持ちを考えない言動をとる場面もある。(要因)
- ・親切にすることの大切さは理解しているが、自分の思いを表出することが苦手であったり、困っている相手にどのように接するとよいか分からなかったりする。

■価値の分析

- ・よりよい人間関係を築いていくためには、温かい心で相手に接することが大切である。困っている人を見たときに、自分にできることはないかと考えて、手を差し伸べようとする気持ちが温かい心である。
- ・幼い人や友達にを思いやり、温かい心をもって接することによって、相手への親切な行為が生まれる。同時に、自分が人の役に立ったという喜びが生まれ、これからも思いやりのある行動をしようとする意欲が高まり、日々の生活の中で実践することにつながる。
- ・相手の立場に立って考え行動することは、自己中心的な態度を改めたり、他者との人間関係を深めたりすることにもつながり、児童の人間性をより豊かにしていくのである。

■教材の分析

- ・展開前段では、たくさんの宝物を手に入れて喜びの気持ちでいっぱいになっているくまの気持ちに十分共感させ、それを捨てることへの葛藤につながるようにする。
- ・ねずみの子を見つけた場面では、ねずみの子を心配するくまの気持ちだけでなく、穴に落ちたねずみの子の不安な気持ちにも共感させる。
- ・中心場面では、心メーターを活用し、「ねずみの子を助きたい気持ち」と「宝物が大事だという気持ち」で揺れ動くくまの心の葛藤や、葛藤を経て宝物を捨てる決意をしたくまの思いに気付かせたい。
- ・ねずみの子からどんぐりを渡された場では、役割演技を行うことで「親切につながる温かい関係」「親切をしたときの達成感」など、相手への温かい心や互いを思いやる気持ちに気付かせたい。

■展開の構想

- ・アンケート結果から、価値への方向付けをする。
- ・宝物を手に入れたくまの喜びを押さえる。
- ・心メーターの活用を通して、ねずみの子を助ける決意に至るまでのくまの心の葛藤について考えさせていく。
- ・役割演技を通して、親切にすると互いに温かい気持ちになることを実感し、価値理解を深める。
- ・周囲の友達や教師の話から、進んで親切な行動をしようとする気持ちを高める。

■基本発問(◎中心発問)

- 宝物をかばんがいっぱいになったとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。
- ねずみの子を見つけたとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。
- ◎かばんにねずみくんが入ればのぼれることに気付いたとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。
- ねずみの子からどんぐりを渡されたとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。
- 親切にしたり、されたりしたことはありますか。

5 他の教育活動との関連

【学級活動・日常生活】

- ・すてき見付けの活動
- ・わかくさ学級での活動
- ・交流学級での活動

【道徳科】(本時)

とくべつなたからもの

【学級活動・日常生活】

- ・すてき見付けの活動
- ・わかくさ学級での活動
- ・交流学級での活動

6 本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助	個への指導・援助		
			A : ③KY 話の内容を理解することに難しさがある。	B : ④KR C : ⑥YA 気持ちの安定が難しく、注意を持続することに苦しさがある。	D : ⑤KR E : ⑥KY 自分の思いを言葉にすることに苦しさがある。
導入	<p>1 アンケート結果から、本時考えたいことをつかむ。</p> <p>親切にすると、どんなよいことがあるのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を視覚化して提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果の見方を確認する言葉を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果を視覚化して提示し、注目できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の回答結果がどちらなのかを、一緒に確認する。
展開前段	<p>2 「とくべつなだからもの」を聞いて、話し合う。</p> <p>○宝物がかばんがいっぱいになったとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宝物でいっぱいになった。うれしいな。 ずっと大事にしよう。 ・早くママに見せたいな。 <p>○ねずみの子を見つけたとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大丈夫かな。心配だな。 ・穴に落ちてしまって、かわいそう。 早く助けてあげないと。 ・今行くから、待っててね。 <p>◎かばんにねずみくんが入ればのぼれることに気付いたとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 助けてあげたい ← 気持ちが揺れ動く → 宝物が大事 </div> <ul style="list-style-type: none"> よい方法が見付かったぞ。 ねずみくんを助ける方が大事だ。 ぼくしか助けてあげられない。 今しか助けてあげられない。 <p>・せっかくたくさんの宝物を見付けたのに、どうしよう。</p> <p>・とても大事な宝物だから、捨てたくないな。</p> <p>○ねずみの子からどんぐりを渡されたとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> いいんだよ。ねずみくんが無事でよかったよ。 ぼくのために持ってきてくれたのだね、ありがとう。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>親切は、相手のことを考えてすることである。</p> <p>親切にすると、自分も相手もあたたかい心になる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> あらすじを捉えやすいように、挿絵等を提示しながら、ゆっくり読む。(ICT機器の活用) 宝物を手に入れたくまくんの喜びを押さえ、それを捨てることへの葛藤につながるようにする。 ねずみの子の不安な気持ちも押さえ、中心発問につながる。 心メーターを活用し、宝物を捨てる決意をするまでのくまくんの心の葛藤を引き出す。 <p>深めの発問</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○本当に捨ててもいいのかな。大事な宝物を捨ててまで、どうしてねずみくんを助けてあげたいの？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを揺さぶる深めの発問をする。助けたい気持ちは誰にでもあるが、苦労して集めた宝物を捨ててまで本当に助けることができるかについて考えさせ、本時の価値理解に迫ることができるようにする。 児童がくまくん役になり役割演技を行うことで、親切にした方もされた方も温かい気持ちになることを実感できるようにする。 くまくんにとって、たった1つのどんぐりが「特別な宝物」になったのは、互いに思いやる気持ちがこもっているからだというのを、教師の話等で触れ、気付けるようにする。 自分で考えることが難しい児童に具体的に助言できるように、日常生活の様子を掴んでおく。 	<p>A : 挿絵等をできるだけ多く使い、話の流れを分かりやすくする。時間の経過が分かるように板書に示す。</p> <p>A : 話す内容がずれているときは、問い返ししながら話したい内容を整理し、板書に位置付ける。話し方や内容など、よいところを見付け、積極的に褒める。</p> <p>A : 親切にしたこととされたことの両方を考える姿を認め褒める。</p>	<p>B C : 注意を促したり、集中して聞いている姿を積極的に認めたりする言葉を掛ける。</p> <p>B : 範読や友達の意見を聞いている姿を認め、学習に参加する意欲を高める。</p> <p>C : 進んで発表できたことを認め褒める。</p> <p>B C : 授業に参加できている姿を認める言葉をこまめに掛ける。</p> <p>B : 自分で見付けられないときは、他の児童に聞いてみたり、教師と一緒に考えたりするように促す。</p> <p>C : 親切にしたこととされたことの両方を考える姿を認め褒める。</p>	<p>D E : 注意を促したり、集中して聞いている姿を積極的に認めたりする言葉を掛ける。</p> <p>D : 指名してから話し始めるまで、時間をかけて待つ。進んで発表できたことを認め褒める。</p> <p>E : 何人かの意見が出た後に指名し、誰の意見と似ているかなどを尋ね、自分の意見をもてたことを認め褒める。</p> <p>D E : 自分で見付けられないときには、他の児童に聞いてみたり、教師と一緒に考えたりするように促す。</p>
展開後段	<p>3 価値把握をもとに、自分たちの生活を振り返る。</p> <p>○親切にしたり、されたりしたことはありますか。</p>				
終末	<p>4 友達や周囲の人の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前に児童の周囲の人に聞き取りを行い、それを見聞きすることで、普段自分たちが何気なく行っている親切に気付き、今後の実践意欲が高まるようにする。 	<p>A : 交流学級での様子について聞き取る。</p>	<p>B : 通学班での様子について聞き取る。</p> <p>C : 休み時間の様子について聞き取る。</p>	<p>D : 交流学級での様子について聞き取る。</p> <p>E : 交流学級での様子について聞き取る。</p>